

三つの花（西部小学校だより） 滑川市立西部小学校 R6.5.1

学校教育目標



「三つの花」を咲かせる西部っ子

にこにこ花 楽しく学ぶ
ほかほか花 相手の心を思いやる
きらりん花 きらきらと自分らしく輝く

入学生69名を迎え、全校児童数 455名で令和6年度の西部小学校がスタートしました。
本年度も本校の学校教育活動にご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

今年も学校教育目標は、「三つの花」を咲かせる西部っ子

- ◎ にこにこ花（楽しく学ぶ）
- ◎ ほかほか花（相手の心を思いやる）
- ◎ きらりん花（きらきらと自分らしく輝く） です。



にこにこ花については、（R5楽しくあいさつができる）⇒（R6楽しく学ぶ）としました。子供たちの「知りたい」「学びたい」「分かりたい」という気持ちをくすぐり、学びを楽しみながら深めて欲しいという考えからです。時と場に応じた気持ちの良い挨拶についても引き続き経験できるようにしていきます。

また、目指す学校像は、今年度も「あしたも行きたくなる学校」としました。

あ＝安全・安心な学校

- ・命を守るため、安全指導の徹底と防災教育を推進する。
- ・子供の人権を大切にし、いじめ等の問題行動の防止に努める。

じ＝自分の居場所がある学校

- ・一人一人の教育的ニーズに応じた支援を工夫する。
- ・みんなに認めてもらえる、あたたかく落ち着いた教育環境をつくる。

た＝確かな学力を育む学校

- ・「ねらいを明確に」「振り返りを大切に」した授業を展開する。
- ・「分かった、できた」と思える学習とするため、ICTの活用、体験的活動等を充実させる。

も＝もっと開かれた学校

- ・地域の教育力や地域社会とのつながりを大切にし、ふるさとへの愛着と誇りを育てる。
- ・ホームページや安心メール等により情報発信を行い、学校・家庭・地域の連携を強化する。

「あしたも行きたくなる学校」とは、一人一人の子供にとって「安心して学ぶ環境がある」、「何度失敗してもチャレンジできる環境がある」、「授業が楽しい・よく分かる」、「認められる・ほめられる」、「自分の活躍できる場がある」、「友達と関わる・話ができる」、「満足感・達成感がある」等と考えます。教職員と児童でこのような学校を作っていくことを目指しています。

先日、子供たちに「好きなことを見つけて粘り強くチャレンジしてほしい。失敗したら何度でもやり直せばいい。そして、お互いのチャレンジの最大の応援団になってほしい。」と伝えました。

失敗は誰にでもあります。安心して失敗できる学校。失敗しても楽しみ、認め合える学校。そんなあたたかな雰囲気为学校づくりを目指していれば、子供たちが「ああ今日も楽しかった。あしたもがんばろう」と思えると考えています。

子供たちの姿・様子から感じたこと

さて、4月から、子供たちは進級した喜びと同時に少し緊張しながら頑張りを続けています。

毎朝、顔を向けて挨拶をする、集団登校では、低学年のスピードに合わせて歩いたり、手をつないで歩いたりする、授業で先生の話をしっかり聞こうとする、手を挙げて自分の意見を発表する、友達の発表に自然と拍手をする、前に進むことを戸惑っている友達に「一緒にやろう」と声をかける、放課後にグラウンドで学童体育大会の練習をするなど、素敵な姿をたくさん見ることができました。

先日、3年生の2名が校長室へ来て「全校のみんなで楽しむことができるといいなあと思うので、芸能人と一緒に全校かくれんぼをするテレビ番組に参加応募して良いですか？」と相談してくれました。気持ちを熱く語ってくれたのです。私は、「いろいろなところに相談してから返事をするね。時間を少しちょうだい。」と答えました。早速自分の考えを形にしようとチャレンジしてくれたことが嬉しかったです。

同時に、気になる子供の姿も見られます。それは、友達と関わる時に乱暴な言葉になってしまう、強い言葉で友達の名前を呼んでしまう、廊下を走ってしまう、授業中、先生や友達が話している途中で自分の話を始めてしまう、廊下を歩いてすれ違う友達にじゃれ合うようにボディータッチをしてしまうなどです。もちろん子供たちの様子の一部です。普段はとても頑張っています。

例えば、サッカーや野球の試合で得点し、喜び合う時のハイタッチやハグを廊下のすれ違いざまに友達に対して行うことは、している本人にとっては何気ない行動だと思いますが、周りから見てもおかしいのです。もしかすると、されている友達は嫌かもしれません。

三つの花を咲かせるためには、このようなTPOを少しずつ自分で意識することが大切です。子供たちの良さは最大限伸ばしながら、子供たちが自分の言動や考えを修正できる自己調整力を身に付けられるよう教職員全員で一つずつを教えていきたいと思えます。ご家庭でもご協力をお願いします。

たくさんの教職員が子供たちをサポート

学校は、たくさんの教職員で子供たちを指導・支援しております。今回は、英語専科、音楽専科、英語活動支援員、ALT、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）について紹介します。

英語専科教員は、英語が5・6年生の教科となったことから、より専門的な指導ができるよう英語教諭の免許を持った教員が指導に当たっています。英語の楽しさを味わいながら、英語の表現に慣れ国際理解を進めるような指導をしています。

音楽専科教員も英語と同様で、より専門的な指導ができるよう音楽教諭の免許を持った教員が指導に当たっています。

英語活動支援員は、担任とALTとともに3・4年生の英語活動の時間の指導に当たります。英語で表現することを楽しむことができるよう指導しています。

ALTは、子供たちがネイティブの発音に慣れるよう、英語や英語活動の時間に授業に参加し指導しています。

また、週に数回の訪問になりますが、学校にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが配置されています。

スクールカウンセラーは、不安や悩み（学校のことや家庭のこと等どんなことでも）等がある子供や保護者、教職員と面談を行ったり、助言したりする専門家です。

スクールソーシャルワーカーは、スクールカウンセラーと同様に不安や悩み（学校のことや家庭のこと等どんなことでも）等がある子供や保護者と面談を行ったり、助言したりする専門家です。家庭にも訪問できることから不登校の子供と面談すること等も可能です。

子供の居場所づくりとチームでのサポート

本年度の西部小学校で大切にしていることのひとつが、個に応じた指導・支援（一人一人の心や体の状態、理解度、考え方に合わせて指導・支援を進める）をチームで行うことです。

例えば、朝、勇気を出して登校した後、すぐに教室へ入ることができない場合には、保健室やハートルーム、職員室等で心を整えてから教室へ向かうこともあります。長時間集中するのが苦手な子供がしっかり学ぶことができるよう、担任以外の教員やスタディ・メイトがサポートすることも多いです。また、学年で合同学習を進めることもあるなど、多くの教職員が子供に関わる体制づくりを進めています。（ただし、教職員の人数が限られているため、全教室で全ての時間に行うことはできません。）

学校が家庭と連携し、一人一人の困り感を少しずつ解消できるように支援していきます。

お子さんが登校することが難しい場合でも、学校と家庭は常につながっています。何でもご相談ください。また、市教育センターや市教育支援センター「あゆみ」でも相談を受けています。

子供たちの日頃の学校生活の様子は、学年だよりや学校ホームページで紹介します。ぜひ、楽しみにしててください。

西部小学校学校ホームページ <https://seibu-e.namerikawa.ed.jp>